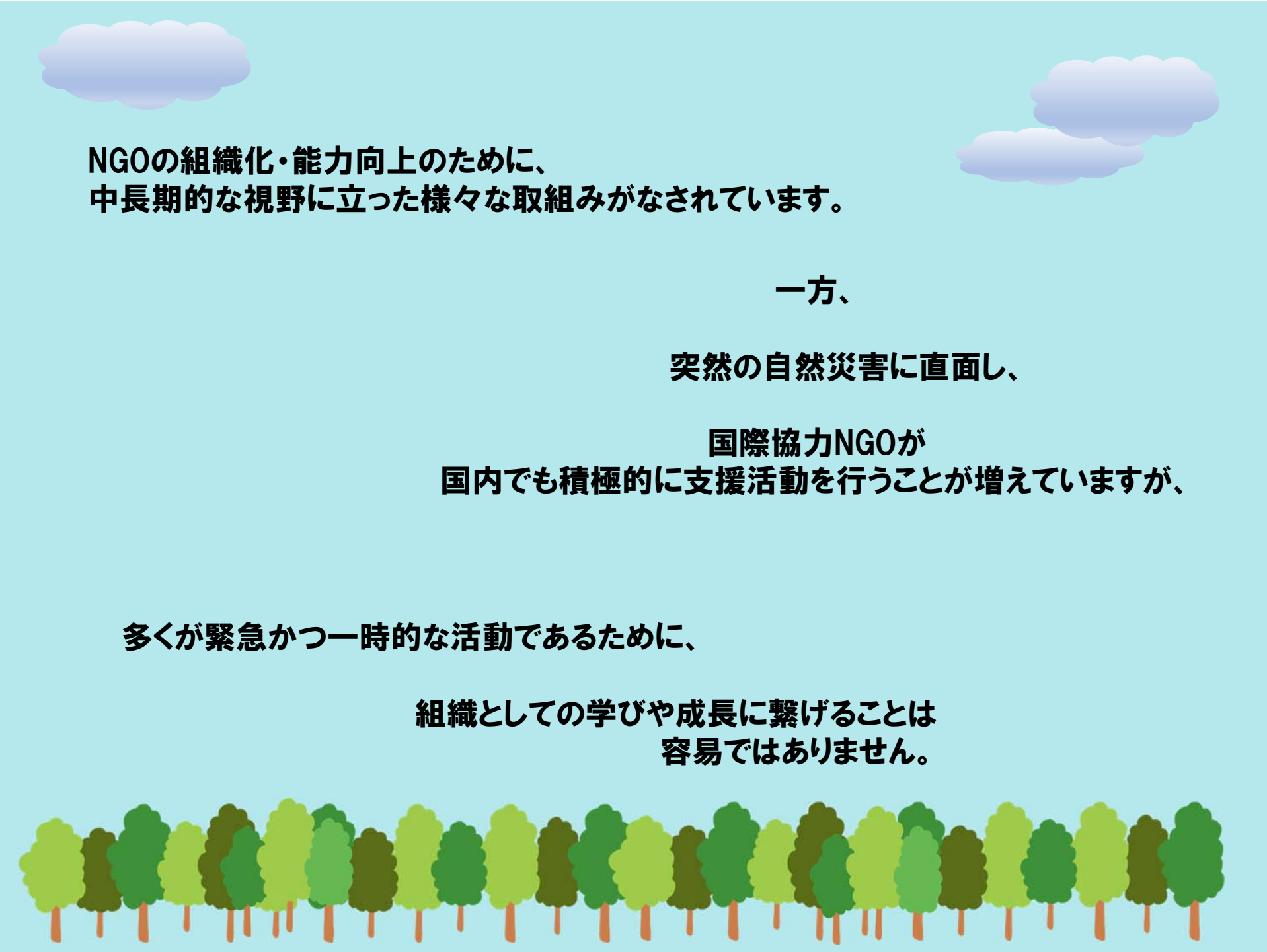


日本国内における 防災・災害支援活動と 国際協力NGOの能力強化

Strengthening the Capabilities of Japanese NGOs Engaged in International Cooperation.
Lessons Learnt from Disaster Prevention and Relief Activities within the Japanese Borders.



令和元年度外務省NGO研究会



NGOの組織化・能力向上のために、
中長期的な視野に立った様々な取組みがなされています。


一方、

突然の自然災害に直面し、

国際協力NGOが
国内でも積極的に支援活動を行うことが増えていますが、

多くが緊急かつ一時的な活動であるために、

組織としての学びや成長に繋げることは
容易ではありません。

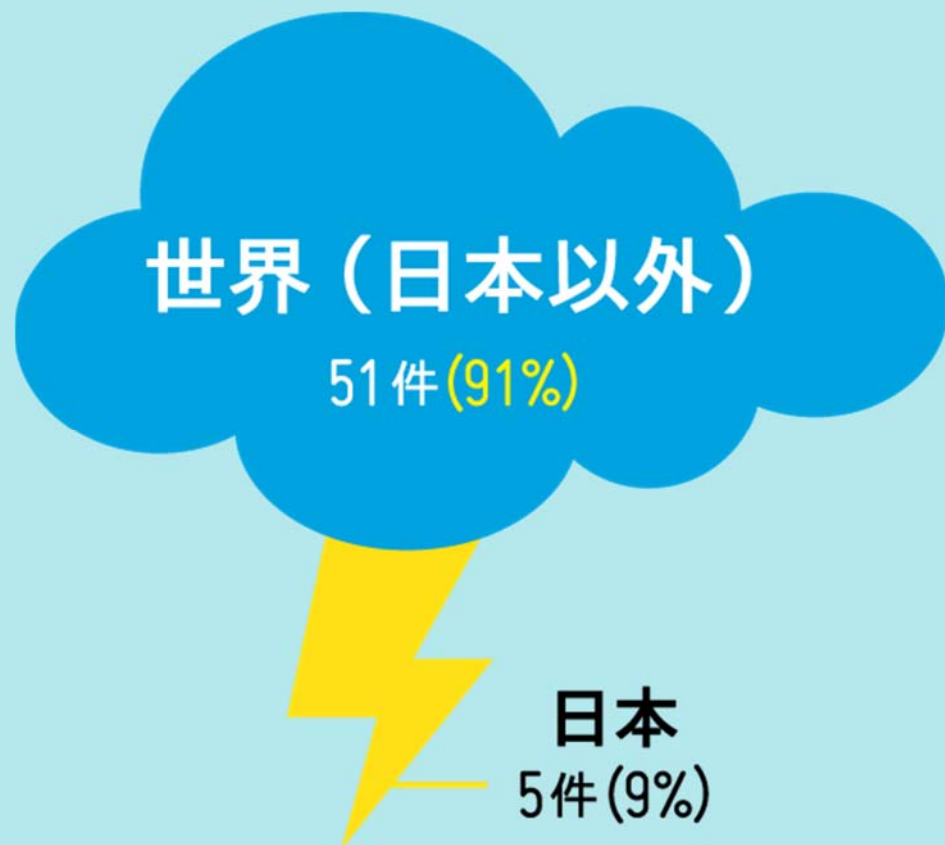


災害大国と呼ばれる日本 近年特に大規模災害が頻発しています。

世界の災害被害に占める
日本の割合



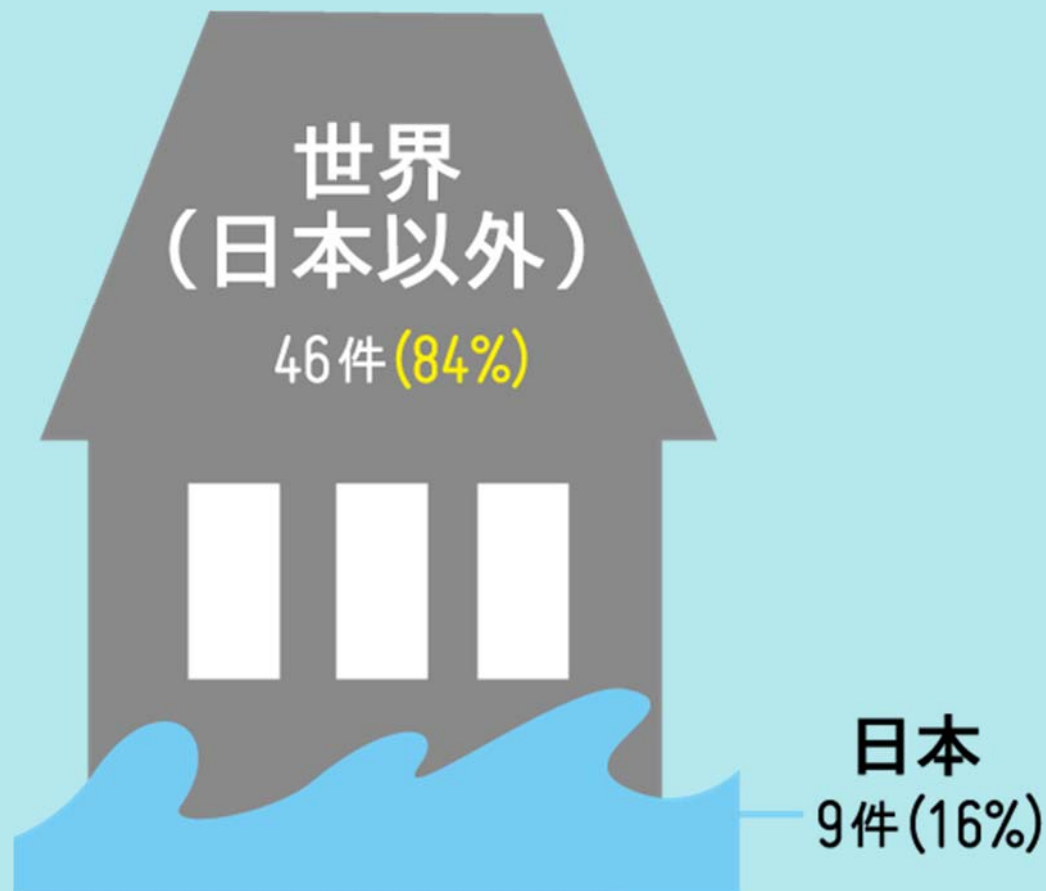
**災害大国と呼ばれる日本
近年特に大規模災害が頻発しています。**



**気象災害
（台風、洪水等）**

災害大国と呼ばれる日本
近年特に大規模災害が頻発しています。

地震・津波





**国際協力NGOに対しても、
その力を国内の災害現場で
被災者支援のために発揮してくれることに
大きな期待があります。**

ひとつひとつの力は小さくとも、
それらを結集することでより大きな力にしていく。



それを可能にするのは「**学び**」です。

その「**学び**」は巡り巡って

国際協力NGOにもプラスの効果をもたらすと
効果をもたらすと考えられます。



中小の団体が多数を占める日本の国際協力NGO、
様々な課題を抱えています。

内的^な
課題

外的^な
課題



内的な 課題

- マネジメント能力の不足
- 対外的なアピール力の不足
- 財政基盤の脆弱さ
- 人材の確保 / 維持の難しさ



- 社会的な認知不足(欧米に比べて)
- 行政サービスの安価な代替との理解
- 組織強化のための支援不足
- 市民社会の支援が
大手NGOや国際機関に集中

外的な 課題

課題解決への取組み



現場志向の団体が多く、
管理(事務局)機能の強化に
振り向けられるリソースは限られます。

そんな中で実施される災害支援を
その後の活動や組織に役立てるノウハウとは・・・。



ヒトから組織へ

個人の得た知識を
組織レベルに落とし込む



利用可能な形の 組織記憶化

- ・ 関係者による「振り返り」
- ・ 組織記憶のデータベース化

維持・継続

災害支援は緊急対応



平常時の
コミュニケーションが大事

- ・ 専任でなくとも担当窓口を明確化
 - ・ 平常時にもそれを維持

仕組みとして内在化

意思決定プロセスの明確化・透明化

強力なリーダーシップ
(鶴の一声) ではなく

- ・ マニュアル、手順書などの整備
- ・ 事前の緊急対応シミュレーション



国際協力NGO

日本国内での
災害支援活動をとおして

職員の
知見の幅が
アップ

国内
ネットワーク
の強化

団体の
知名度アップ。

但し

事務局機能強化
の必要性への
気づき

これらは**目的**ではなく、

但し

結果論として後から**理解**されるもの。

また、

これらはいくまでも **可能性** であって

災害支援活動が
団体の組織強化・能力向上に結び付けられるか否かは

団体次第



さらに……

中小のNGOは、
必ずしも組織強化・能力向上を目指す団体ばかりではない
ことにも注意が必要。

管理(事務局)機能の
強化よりも現場重視
を貫きたい。

無機的な組織化よりも
個人レベルの「想い」
を重視したい。

鍵は

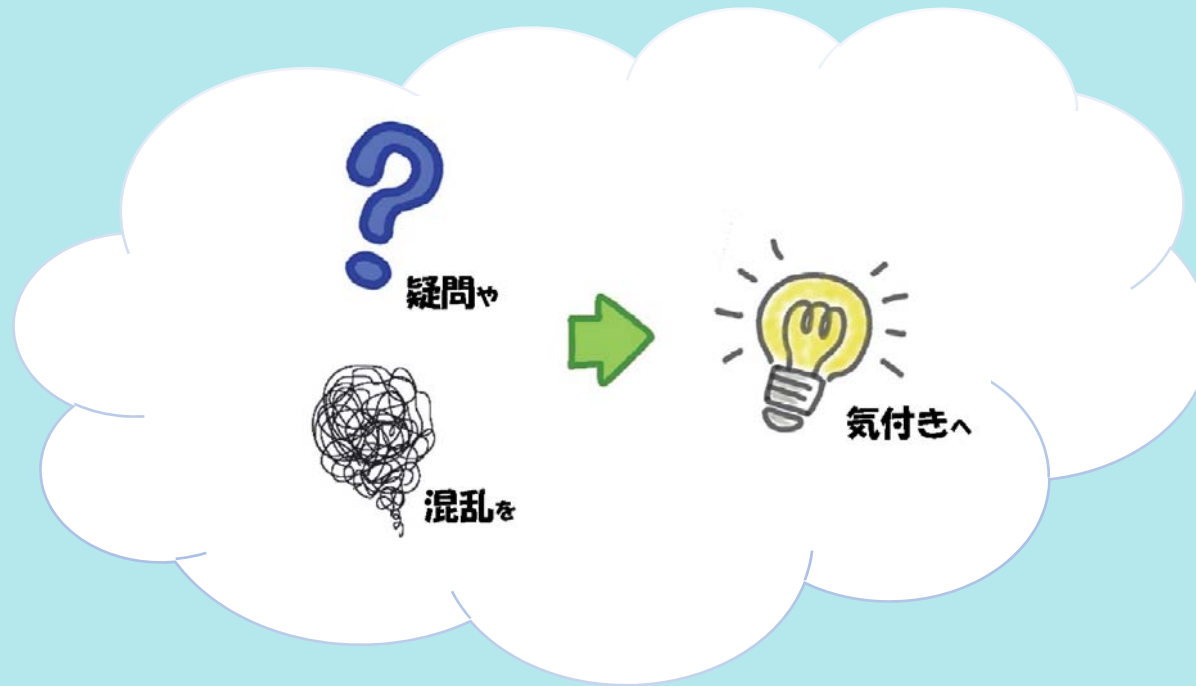


学び

と

成長

外務省 NGO研究会



公益社団法人 青年海外協力協会
Japan Overseas Cooperative Association